

藤崎 晃	1 組	横浜市青葉区鴨志田町	サッカー部
------	-----	------------	-------

「来し方を振り返り」

このごろ幼児を見かけると無性に愛おしく思う。

馬齢を重ね老い先短くなった所為、それとも幼子達の将来に責任を果たせていない戦中派の悔やみの所為だろうか。

深志 15 回生は最期の戦中派、申年は数えの傘寿を迎える。改めてここまで良く来られたものだとも思う。

東源池で生まれた。お向かいには深志同級生の百瀬武さん、今も親交を頂いている。共に申年だが私は早生まれ、中学までは 1 学年上だったが幼い頃は一緒によく遊んだ。防空頭巾を被って三輪車に乗っていた記憶が鮮明に残る。当時はどここの町内も子供が多くて正月の三九郎焼き、盆の青山様、秋の町内運動会などワクワクして参加したことを思い出す。

運動会は町内家族総出で埋橋にあった松南高校のグラウンドに集まった。

仮装行列で百瀬武さんと舌切り雀に出たが、私は意地悪ばあさん役で武さんが優しいおじいさん役だった。

昭和 30 年前後は戦後の復興期、多くの家庭が貧しかったけれど、いじめなどは皆無で子供達は皆仲よしだったように思う。

中学までは学業成績はまあまあで深志受験は自然と思っていたが見事に不合格になり父親の一筋の涙を見て我が身の怠惰を漸く自覚した。家業が零細菓子製造だったので深志定時制に入学し家業を手伝いつつ、松本図書館へ通い翌年合格した。

深志の三年間は学校行事として様々なことがあったのに殆ど覚えていない。

入学した年の 60 年安保闘争時には全校生徒が市中行進した筈だが記憶にない。ノンボリで何の考えも持たずサボったのだろうと思う。

しっかり思い出せるのはトンボ祭のキャンプファイアーを囲む歌声や清陵高校との交歓交流くらい。他は学業以外の思春期を一緒に付き合ってくれた数名の友人との思い出ばかりが浮かぶ。授業サボってグラウンド隣の桑畑でビール、薄川の土手で花見酒、初めてスナックバーに入りママさんに手玉に取られたり、日活映画に通いパチンコを覚えたのも深志時代だった。

そんな忘れられない友人の三名が社会人となり活躍中に早世してしまった。竹内宏充さん、深志の自治を守り、生徒会の改革を訴えて生徒会長に立候補し当選、先頭に立って奮闘した。私に欠ける情熱を持った熱血漢で、あるべき生徒会について目を輝かして語っていた姿が懐かしい。大学で土木工学を専攻し建設現場や設計コンサルタントで活躍するも 18 年前、2005 年の夏に早世した。高山晃一さん、深志時代に柔道三段を獲得した巨漢で笑顔の優しいビール大好き男だった。前述の桑畑でサッポロジャイアントを飲んだのも彼とであった。慶應大学へ進みミネベアで活躍したが転職して郷里へ戻り、2010 年の暮れ早世した。小野彪さん、友人達と彼の実家へ度々寄らせて貰い食事や酒をごちそうになり、同学年の女子生徒への想いなど語り合った記憶が甦る。中央大学から税理士となり同級生との付き合いを大事にしていたが、2021 年急逝してしまった。深志時代お世話になり私の青春への入り口を充実させてくれた個人に改めて感謝し衷心よりご冥福を祈る。

翻って私の方は大学を出て損害保険会社に就職し、結婚して子供二人が生まれ平々凡々の日々を過ごし 65 歳で退職。その後 3 人の孫にも恵まれ今日に至っているが、このまま数年で死ぬと考えると忸怩 樽思いが折々頭を占める。

我々戦中派は昭和後半の高度成長期に明日の心配をせずに働くことが出来た。我々の子供達が社会人となった 2000 年前後は金融危機に続く不況下の就職難、その後は賃上げの実感を伴わない平成・令和が続く中で子供達は年を重ね 50 歳前後に、孫達は小中高の教育費が嵩む年頃になっている。我々親の世代がこの先要介護となったときの面倒を見る余裕はなさそうだ。

加えて世界情勢はロシア・ウクライナ戦争、イスラエルのガザ地区侵攻、中国の国際秩序と道義を踏みにじり、日本は財政規律を顧みない政治・経済が続いている。古来人類は戦争によって文明を発展させてきたとも言えようが、現在は核兵器を使用したら人類が破滅することも確実である。そのことの自明さにも拘わらず戦争の野望を止めようとししないのは何故だろうか？

歴史は進化発展するものと信じてきたが、人間を形成している無意識の業・因果の中に戦争の因子がすり込まれ、武力で解決を図る思考から抜け出せないのだろうか？我々世代の子供達と孫達のこの先の社会はどうなっていくのか、80 ジジイにもなって何と青臭いことをと言われても、そして怠惰な我が身で出来ることは殆ど無いにもかかわらずごまめの歯ぎしりのこの頃である。